

令和2年度第1回医療事業推進委員会近畿地区

リーダー育成研修会

日時 令和2年9月5日(土) 13時～16時
場所 大阪府栄養士会事務局 WEB開催
参加者 29名

1. 第1回、第2回(公社)日本栄養士会医療事業推進委員会報告

- ・ 常任選定・・・医療事業推進委員から互選で石岡委員、本川委員、徳丸委員の3名が常任として互選された。
- ・ 業務量調査について・・・今年度は病院の管理栄養士、栄養士の業務量を調査する。対象施設は全国350か所で3500～4500名の都道府県栄養士会の役員の施設と管理栄養士、栄養士(委託も含める)を目標とする。
- ・ 食事療法学会の在り方、研修会の運営について・・・第40回食事療法学会(京都)の開催は中止となり抄録集の紙面配布とオンライン形式の開催に変更となった。これに伴い臨床栄養学術セミナー、スキルアップセミナーもWEB開催を検討している。
- ・ 地区リーダー研修会での議題項目について説明があった。
- ・ 栄養領域についての新型コロナウイルスに関するエビデンス構築案について・・・新型コロナウイルスのような100年に一度の事態と言われていることを後世に残すためにも栄養領域のエビデンスを構築する取り組みをおこなう。(学会発表等)
- ・ 厚生労働省保険局への要望について・・・医療介護同時改定に向けて要望をまとめていく。

2. 協議事項

1) 全国栄養部門実態調査(業務量調査)及び2021年度実態調査

2024年の医療介護と同時改定時に管理栄養士の病棟配置を目標とするため、従来診療報酬改定年度は実態調査をおこなうが、早

急の課題であることから病棟での管理栄養士の業務はどのようなもので、どれぐらいの業務量があるのか、また本来、管理栄養士・栄養士がおこなわなければならない業務をどの程度おこなっているのかを明確にする必要性があり業務量調査をおこなうこととなった。全国350か所で3500～4500名の業務量調査(管理栄養士、栄養士、栄養事務、委託側も含める)を35日間おこなう。

2) 今後の医療職域のビジョンについて

平成25年に医療職域のビジョンを作成したが令和2年までに達成された内容もあることから評価、検証をおこない、このたび令和版のビジョンを策定することとなった。方針としては①患者の治療基盤となる「栄養管理」の体制を構築する②在宅を含め地域と連携し、継続した支援を確立する③病院機能の専門分化に対応した管理栄養士教育体制の整備がある。

3) 今後の食事療法学会の在り方について

2020年度の食事療法学会(京都)は参加型が中止となり抄録集の紙面配布とオンライン形式による開催となった。2021年度の食事療法学会、またスキルアップセミナーや臨床栄養学術セミナーもWEB開催で検討している。また2020年度の食事療法学会ではcovid-19に関連した栄養管理・給食管理の演題募集を行う予定である。

4) 2020年診療報酬改定における新たな評価への取り組みについて

2020年診療報酬改定において栄養関連に関する事項が多く評価された。その取り組みや実態形成について現状報告が各府県からあった。すでにすすめているものもあれば、マンパワー不足で実施できていない項

目もあった。

5)2022年度診療報酬改定要望について

特別食加算の拡大（摂食嚥下、アレルギー等）や栄養食事指導料の拡大（地域包括ケア病棟に対してや専門管理栄養士の評価等）の意見が多かった。

6)会員増対策について

各都道府県栄養士会、日本栄養士会のホームページを医療で内容を充実させること、大学卒業前に栄養士会の勧誘、情報提供をおこなっていくこと、WEB研修会をふやしていくこと等の意見があった。

7) 新型コロナウイルスでの各施設の対応について

給食の食器を使い捨て食器に変更したことや栄養食事指導時の感染予防対策（マスク、フェイスシールド、換気をよくする等）があった。また、栄養部門の職員に感染者が出て通常の給食提供が出来なくなったときは、災害時マニュアルをもとに備蓄食を考慮した食事の提供を検討している病院もあったが大半はマニュアルが無いまたはマニュアル作成に苦慮している意見が多かった。

（文責 医療 内菌雅史）